

平成29年（ワ）第112号

意見陳述（骨子）

令和元年（2019年）6月13日

山口地方裁判所岩国支部 御中

原告 吉木京子

私は、周南市在住の、吉木京子と申します。肩書は、ほぼ主婦、といったところでしょうか。

本日、この場での意見陳述をさせていただくにあたり、もしかしたら、私の人生において最初で最後かもしれない意見陳述という場に推薦してくれた仲間の皆様と、聴く耳と時間を持ってくださった裁判長はじめ裁判所の皆様、四国電力の皆様、マスコミの皆様、もちろん、この場の皆様に感謝いたします。聴く耳の「きく」は、門構えの「きく」ではなく、国民の声を聴く、の、耳偏の「きく」です。どうか、身を入れて聴いていただければと思います。

偉そうに、前置きが長くなり、申し訳ありません。本題に入らせていただきます。申し上げたいことはたくさんあります。まさにたくさんの島々の、その美しさに圧倒される瀬戸内を守りたいこと、憤っていることとしては、佐田岬半島沿岸部に活断層が存在しないとほぼ断言されたことや、阿蘇山の巨大噴火は可能性が十分に小さいという社会通念、それは、私には、UFOが存在しないというくらいの軽い社会通念に聞こえます。そのせいか、避難が現実のこととして考えられていないこと、等々、こちらこそ、それらのマイナス面・不合理性を訴えたいのですが、それらは、今まで十分に言及されてきました。従って、私は、根源的なことを申し上げたいと

思います。

伊方原発の存続は間違っています。

しかし、この一言は、全てを象徴するキャッチコピーとしてお受け取りください。

私は、本日、本裁判の 174 名の原告を代表させていただいておりますが、今ここにいる私は、松山、広島、大分の各地方裁判所で争われている伊方原発運転差止を求める裁判の原告、それらすべての応援者、そして、全国の原発反対者、世界の原発反対者を代表していると自負しています。地球は一つで、陸も海も繋がっていることをご存知でしょうか？海底にも、天空にも、何か汚染された場合、はい、ここまでよ、という壁は存在しません。とりわけ、原発事故による汚染は、人類の存続に関わるということ、皆様もご存知のはず。ということは、私は今、原発推進者の方をも含む、人類を代表していることになります。大袈裟な主婦だと笑いますか？いえ、笑ってられないのが原発事故です。

そもそも、私は不思議でなりません。なぜ、このことで争わなくてはいけないのか？

世界が目指すものが恒久平和なら、戦争の駆け引きに使われる核など存在してはならないはずなのに存在し続ける愚かさ。それを誠しやかに平和利用という美名のもとでエネルギーとして使う。その危険性ゆえ、この伊方原発も 1973 年の建設反対運動からの歴史があるにもかかわらず、そして、世界 10 大核惨事に入る 1999 年の東海村、2011 年の福島第一原発、また、ヒューマンエラーだと言われている 1979 年のスリーマイル島、1986 年のチェルノブイリ等数多の事故が起きているにもかかわらず、なぜ、核のエネルギーが存在し続けて、その存続について争わなくてはいけないのでしょうか？やはり、そんなに、核兵器の材料となるプルトニウムが必要なのですね。戦争をやめたくない人たちが世界を、経済を支配しているのでしょうか。いつまで続けるのですか？いつまで加担する人たちが力と多数決で勝つのですか？

何が大切かを、勇気など出さなくとも言えるよう、司法は独立しているのではないですか？どうか、知性と感性のバランスの最高地点でご判断ください。

3月15日の仮処分申し立て却下には、もちろん落胆しましたが、気持ちのどこかでは、ああ、やっぱりね、という思いもありました。これが、この国の、特に、バックグラウンドにある現政権のやり方だと、62歳のほぼ主婦もわかっているからです。私は、以前から訴えてきました。日本のリーダーこそが、唯一の被爆国として、世界の恒久平和のリーダーにならなければならない、と。なのに、過酷な事故を起こした福島原発の終息も見通せないなか、原発を輸出する政策に固執し、また、多くの県民が反対の意思を表明している沖縄・辺野古の海の埋め立て強行。地域住民が騒音被害に苦しんでいるご当地米軍岩国基地の問題。地元自治体が「地域の存続に直結する」と明確に反対しているにも関わらず「イージス・アショア」の配備を進めようとするなど、平和憲法に反し、戦争につながる施設を、一体、誰のために、なんのために整えていらっしゃるのですか？そして、なぜ、それに加担するのですか？根源的な問題です。そんな、知性と感性の人たちに、原発の存在が正解などと判断されたくありません。え？原告・吉木京子は伊方原発と関係ないことを言っている？いえ、最初に申し上げましたように、伊方原発はすべてを象徴するキャッチコピー、間違ったことがすべてリンクしているのです。

従って、この伊方原発に絞って、いかに危険であるかの説明をしてくださる先生方は、根源的なことがわかっていらっしゃる人たちへの、優しく真剣な、そしてもちろん科学的な個々のアプローチをされているのです。

自然の脅威があまりにも軽く受け止められていることに驚きます。最初に申し上げました阿蘇山が巨大噴火を起こさないだろうという社会通念、それは神ですか？時々刻々迫り来ることがわかっている台風でさえ、被害をなくすことができないのに、突然の地震や噴火にどう対処できるというのですか？地震国日本、火山国日本

という形容は、もう忘れてOKなのですか？

原発推進者の方たちの、仕事や立場もおありでしょう。それが、間違ったリンクの中で脅かされるのなら、それこそ、変えていきませんか。日本を変えるスタートにしませんか。これからの子どもたちに、大人の勇気を見せ、政権に教えてあげませんか。

「平成」という時代は、決して、世間がおだやかで静かな「平静（へいせい）」ではありませんでした。令和という改元が間違った考えに利用されることなく、真の、**beautiful harmony** となるよう、最初に申し上げました、地球は一つであること、その恒久平和のリーダーたるべき日本の、この伊方原発裁判の判断が世界を変えるきっかけ「I・K・A・T・A 伊方」となることを確信し、私の意見陳述を終わらせていただきます。一人の国民の声を聴いていただいて皆様ありがとうございました。「I・K・A・T・A 伊方」です。